

学校評価～中間評価の結果と分析・改善策～

本校の教育目標 「心豊かに 未来を切り拓く たくましい児童の育成」

めざす児童像 自分の考えを持つ子 自分を表現する子 人を大切にする子
他者と協働する子 チャレンジする子

①確かな学びのある学校づくり

○どの項目も肯定的な割合が増えている。

△話し合う力の育成に課題を感じている教員がいる。

→考察・帯タイムでの指導、授業での指導、児童との目標の共通理解で児童も伝えることを意識して取り組んだ。

⇒改善策

- ・各学年での指導の段階の違いと共通実践していくことを明確にし、長期目線で取り組んでいく。
- ・単元や1時間ごとに児童と目標を決めて進め、自己評価と先生から見た到達度評価を行い児童にフィードバックしていく。
(例：みんなに聞こえるこえで発表しよう。友達の意見と比べながら発表しよう。)

②温もりのある学校づくり

○どの項目も肯定的な意見が多い。

△保護者のお子さんにご家庭での役割(手伝い・自分の仕事)をさせていますか。という項目では、肯定的意見の割合が76.5%と、昨年より6.6%下がっている。

→考察・蛸島っ子面談や毎月の生活アンケートにより、児童理解に努めるとともに、共通理解を図った。

⇒改善策

- ・なかよし集会や蛸島っ子面談の充実を図り、主体的に温もりのある学校にしていこうとする意識を高める。
- ・お手伝いを宿題として、月に一度課し、自分にできることを考えさせて取り組ませる。

③健康な体を育む学校づくり

○項目9・11は、教職員・保護者・児童ともに肯定的な回答が100%である。

△項目10については、保護者の肯定的な回答が76.5%と低くなっている。

→考察・各学年においてスポチャレに取り組み、意欲的に記録更新をめざしていた。

- ・家庭での基本的な生活習慣が十分に身につけていない児童がいる。

⇒改善策

- ・スポチャレいしかわに取り組み、月末に記録の登録をするとともに、児童にその時点でのランキングを公表することで、進んで運動する意欲につなげる。
- ・生活ふりかえりカードを実施し、児童の実態に応じて事前と事後の指導の充実を図る。

④地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

○どの項目も90%以上で、肯定的な回答が多い。

○地域に出て体験的な活動を行うことが継続して行われている。

→考察・各学年で地域のよさ(人的・物的・資源)を生かした体験的な活動を計画的に行っていた。

⇒改善策

- ・2学期中に、各学年1回以上地域のよさ(人的・物的・資源)を生かした体験的な活動を計画・実施する。

⑤教職員のチーム力を生かす学校づくり「チーム蛸島」

○どの項目も肯定的な回答が100%。 ○退校時間を意識して、仕事を終えるようにしている。

→考察

- ・共通行動が図れるよう職員室に「team 蛸島」ボードに生徒指導上の目標を書くなどした。
- ・「my 定時退校日」2回設定などにより勤務時間に対する意識の向上が見られた。

⇒改善策

- ・見通しを持って業務に取り組めるように、職員会議の提案時期や内容を見直す。お互いに声をかけあい、仕事を進めるようにする。